

## 大高緑地の花木園における植生管理と植物相

大主 順一<sup>(1)</sup> 谷 幹雄<sup>(1)</sup> 寺本 匡寛<sup>(2)</sup>

<sup>(1)</sup> 大高緑地湿地の会 〒453-0836 名古屋市中村区五反城町2-2-2

<sup>(2)</sup> なごや生物多様性センター 〒468-0066 名古屋市中村区元八事五丁目230番地

## Vegetation management and flora of the flowering tree garden in Odaka green park, Nagoya, Aichi, Japan

Yorikazu ONUSHI<sup>(1)</sup> Mikio TANI<sup>(1)</sup> Tadahiro TERAMOTO<sup>(2)</sup>

<sup>(1)</sup> Club of the marsh in Odaka green park, 2-2-2 Gotanjyochi, Nakamura-ku, Nagoya, Aichi, 453-0836, Japan

<sup>(2)</sup> Nagoya Biodiversity Center, 5-230 Motoyagoto, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi, 468-0066, Japan

Correspondence:

Yorikazu ONUSHI E-mail: yoka1115@violet.plala.or.jp

### 要旨

大高緑地湿地の会では、大高緑地内にある花木園において管理区域を大きく5つに区分し、植生管理を中心に各エリアの管理目標と優先順位を設定し、湿地の保全活動をボランティアとして行っている。これまでの保全活動の成果を把握し、今後の作業計画の基礎資料とすべく植物相調査を行った。その結果、71科203種の植物が確認された。その要因として湧水湿地、林縁、草地、池、水田状の湿地など多様な環境があることに加え、管理区域ごとに草刈り頻度とそのタイミングが異なることで、結果的に低茎草本、高茎草本、低木および高木まで生育できる環境の創出に繋がったと考えられる。さらに、保全団体のボランティア活動がそれを支えることができることが確認された。

### はじめに

大高緑地は、愛知県名古屋市緑区に位置する愛知県営の都市公園（広域公園）である。この辺りの地質は矢田川累層（東海層群の一部）で、地下からの浸み出し水による小規模な湧水湿地が形成されている場所がある。大高緑地内にある花木園もそのひとつである。このような湧水湿地にはトウカイコモウセンゴケ *Drosera tokaiensis* subsp. *tokaiensis* をはじめ東海地方の丘陵、台地の低湿地およびその周辺に固有、もしくは日本における分布の中心がある植物が十数種知られており、東海丘陵要素植物と呼ばれている（植田, 1989・2002）。

近年、湧水湿地の多くが宅地造成等の開発行為や植生遷移により消失または縮小している。また、防災上の措置や植生遷移の進行により新たな湧水湿地が生じにくい

状況となっており、東海丘陵要素植物群をはじめ多くの種が絶滅に瀕している（愛知県環境部, 2007）。

湧水湿地が減少、劣化の傾向にあることから、植生遷移の進行を止めたり戻したりといった人が積極的に関与して保全活動を行うことが必要な状況となっている。また、これまでに保全活動の内容と植生回復に係る研究や植生調査などは一部でしか行われていない（富田, 2014）。

このような背景から、2001年に大高緑地を活用している県民グループと愛知県尾張建設事務所都市公園出張所との間で話し合いの場がもたれ、花木園を湿地園として管理することとなった。その後、2003年から「大高緑地湿地の会」（立ち上げ当初は「大高緑地の湿地を復元する会」として花木園において湿地の保全活動（以

下、活動）を行ってきた。基本、活動は毎月第2日曜日の9時～12時に行っている。主な活動は、植生管理（以下、管理）で、草刈り、落ち葉掻き、現地からの採取や播種等を行っている。

本報告では、これまでの活動の成果を把握し、今後の作業計画の基礎資料とすべく行った植物相調査の結果についてまとめたものである。

### 調査地と管理内容

調査地は、愛知県名古屋市緑区大高町西平部山に位置する愛知県営の大高緑地内の花木園のうち面積が約5,377m<sup>2</sup>の範囲とした（図1）。当該地は、標高18～24mの低いゆるやかな丘陵地にあり、近傍の名古屋市の年平均気温は、15.8℃（名古屋地方気象台；標高51.1m；1981～2010年）で、年降水量は1,535.3mm（同）である。

（公財）愛知県都市整備協会大高緑地管理事務所長の林孝市氏によると、花木園は、大高緑地の一部を多くの人が使えるよう整備された供用施設で、1969年に整備され45種、約6,000本の樹木が植栽されている。樹種の詳細については資料が残っていないため不明である。



図1. 調査地  
（国土数値情報を編集して作成 編集者：寺本匡寛）

現在、当該地を5つの管理区域に分けて管理を行っている（図2）。図2に示した各管理区域の境界は、名古屋市都市計画基本図DVD-ROM Ver1.1とGoogleマップの空中写真（2015年10月25日撮影）および平成27年3月14日の現地調査をもとに作成したものをを用いた。

- ① トウカイコモウセンゴケの丘（図3）
- ② たまり池回りと導水路の北側（図4）
- ③ 中央湿地・下池と導水路より南側（図5）
- ④ 冬鳥の餌場回り（図6）
- ⑤ シラタマホシクサ自生地回り（図7）

以下に各管理区域の概況と管理目標を述べる。なお、管理区域ごとの面積の算出には、オープンソースGISソフトウェアであるQGIS（Ver.2.16.1）を使用した。

①トウカイコモウセンゴケの丘は、面積が約800m<sup>2</sup>で、林縁に接するように東西に伸びる帯状の5°～16°の傾斜の丘に湧水湿地が点在している。管理目標をトウカイコモウセンゴケが繁茂する丘とし、ヌマトラノオ *Lysimachia fortunei* とワレモコウ *Sanguisorba officinalis* の保全にも努めている。②たまり池回りと導水路北側は、面積が約1,368m<sup>2</sup>で、谷底の平坦面が5°以下の緩斜面に低茎草地に造園や園芸として流通している樹木が植えられている。その他、たまり池と呼ぶ小さな池が存在する。管理目標を都市公園としての風致の維持としている。③中央湿地・池と導水路より南側は、面積が約1,402m<sup>2</sup>で、谷底の平坦面が5°以下の緩斜面に中央湿地と呼んでいる水田由来の湿地の周辺には低茎草地が広がり、池の周辺には造園や園芸として流通している樹木が植えられている。管理目標を都市公園としての風致の維持としていが、一部ツリガネニンジン *Adenophora*

表1. 近年の主な月別の活動内容

月	作業内容	対象管理区域				
		①	②	③	④	⑤
4	落ち葉掻き, 草刈り	●				●
5	草刈り	●	●	●	●	●
6	草刈り	●	●	●		●
7	草刈り	●	●	●		●
8	草刈り	●				
9	草刈り	●				
10	草刈り	●	●	●		
11	草刈り	●	●	●		
12	落ち葉掻き, 草刈り, シラタマホシクサの採取と播種	●	●	●		●
1	落ち葉掻き, 草刈り	●				
2	草刈り	●				●
3	草刈り	●				

※対象管理区域の番号は管理区域番号を示す。

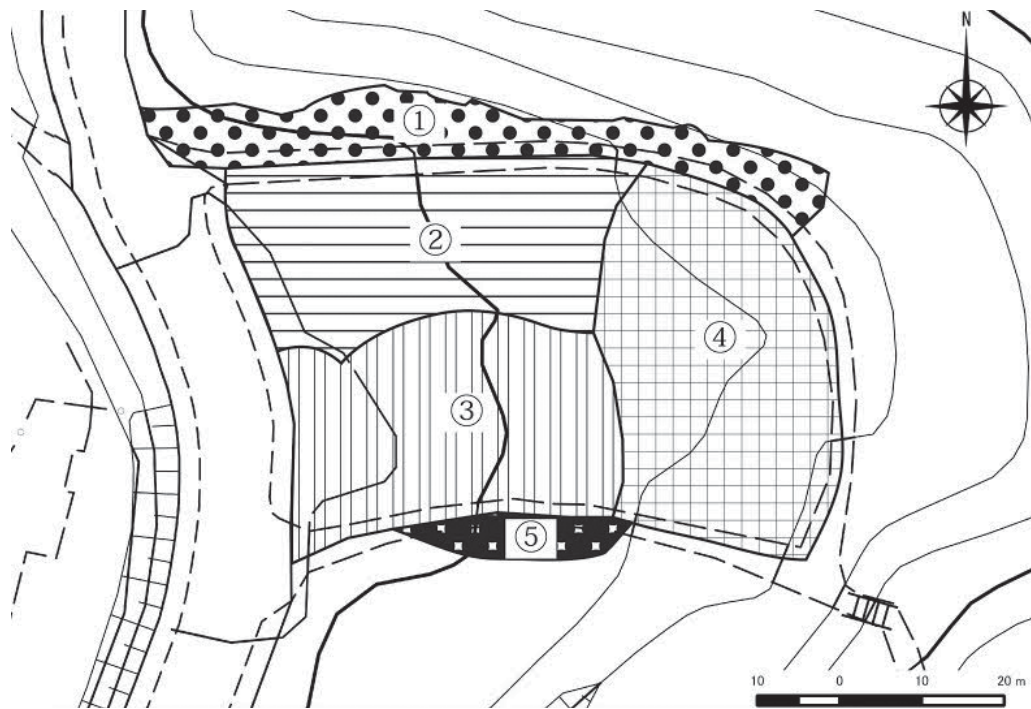


図2. 調査地における管理区域（名古屋市都市計画基本図DVD-ROM Ver1.1を編集して作成）  
図中の番号は管理区域番号を示す。①トウカイコモウセンゴケの丘、②たまり池回りと導水路の北側、③中央湿地・下池と導水路より南側、④冬鳥の餌場回り、⑤シラタマホシクサ自生地回り



図3. ①トウカイコモウセンゴケの丘



図5. ③中央湿地・下池と導水路より南側



図4. ②たまり池回りと導水路の北側



図6. ④冬鳥の餌場回り





図7. ⑤シラタマホシクサ自生地回り

*triphylla* var. *japonica* の保全にも努めている。④冬鳥の餌場回りは、面積が約1,644m<sup>2</sup>で、谷底の5°以下の緩斜面である。エリアの外周に植栽由来の樹木が植えられており、その内側に高茎草地在広がっている。管理目標を冬鳥が訪れる高茎草地としている。

⑤シラタマホシクサ自生地回りは、面積が約165m<sup>2</sup>で、谷底の5°以下の緩斜面にある湧水湿地である。「白玉干草自生観察地 一九八八起」という看板が設置してあり、1988年にシラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe*、モウセンゴケ *Drosera rotundifolia*、ミミカキグサ *Utricularia bifida* の3種が移植されたと考えられる。管理目標をシラタマホシクサが優占する湧水湿地としている。

さらに、管理の中で特に草刈り作業の優先順位を以下のように決めて実施している。

- I. トウカイコモウセンゴケ (対象管理区域：①) とシラタマホシクサ群落 (対象管理区域：⑤) の維持と拡大
- II. ヌマトラノオ・ワレモコウ (対象管理区域：①)、ツリガネニンジン群落の形成 (対象管理区域：③)
- III. 冬鳥の餌場の維持 (対象管理区域：④)
- IV. 植物が繁茂して、都市公園としての景観を損なう状況の改善 (対象管理区域：②, ③)

この優占順位を元に、活動予定スケジュールを作成し、管理区域毎に活動を行っている。近年の主な月別の活動内容を表1に示す。これ以外に、公園管理作業の一環として公園管理者による除草作業を、花木園において公園管理者側が行う作業範囲を事前協議の上実施している。

## 調査方法

大高緑地内の花木園内で活動を行っている管理区域ごとに植物相調査を行った。対象は維管束植物 (以下、植物) とし、移植種と栽培種も調査対象に含めた。移植種は、大高緑地内または名古屋市近辺の自生地から植え替えたものとした。栽培種は、野生地不明の造園や園芸として流通している植物、これらから逸出した可能性がある植物、ネームプレートが付いている植物、造園や園芸として流通する植物を植えたものとした。ただし、大高緑地に生育している植物または以前から大高緑地に生育していたと考えられる植物は除いた。

生育の確認された種を「日本維管束植物目録」(邑田(監修)・米倉, 2012) の配列に従って整理し、和名、学名、管理区域別にまとめた。

調査は、当該地の植物相をできる限り網羅するため春～冬に掛けての、2015年の3月14日、4月12日、5月1日、5月10日、5月29日、6月14日、7月12日、8月9日、9月13日、10月11日、12月13日の計11回行った。

## 結果と考察

調査の結果、花木園内で71科203種の植物が確認された (表2)。同じ名古屋市緑区にある滝ノ水緑地において2010年の5月～9月に植物相調査された報告によると44,000m<sup>2</sup>の範囲に栽培種も含め81科238種の植物が記録されている (飯尾, 2010)。これと比較しても花木園の約5,377m<sup>2</sup>の範囲に多くの種が生息していることが分かるであろう。厳密には、管理をする前と比較する必要があるが、湧水湿地、林縁、草地、池、水田状の湿地など多様な環境があることに加え、管理区域ごとに草刈り頻度とそのタイミングが異なることが多くの植物が確認された要因と考えられる。

確認された植物種の中で、「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015-植物編 (名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 2015)、レッドリストあいち2015 (愛知県, [http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/redlist/redlist\\_2015.pdf](http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/redlist/redlist_2015.pdf), 2016年9月27日確認)、あるいは全国版のレッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-8植物I (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015) に記載されている貴重種は移植種のシラタマホシ

クサとモウセンゴケの2種であった。サギソウ *Pecteilis radiata* は貴重種であるが、2004年に来園者の誰かが植栽した栽培種であるためここでは含めなかった。また、東海丘陵要素植物群として区分される数十種のうち、移植種のヒトツバタゴ *Chionanthus retusus* とシラタマホシクサ、自生種のトウカイコモウセンゴケおよび1969年の整備時に植栽されたと考えられるハナノキの計4種が確認された。今後、地域個体群の遺伝的汚染を防ぐために移植種と栽培種を植えることは控える方針である。

## 管理区域ごとの植物相

### トウカイコモウセンゴケの丘

トウカイコモウセンゴケの丘では、48科101種の植物が確認された。このエリアは、小規模な湧水湿地と草地が林縁に接した環境である。そのため、ヤマイ *Fimbristylis subbispicata*、ヌメリグサ *Sacciolepis spicata* var. *oryzeterum*、コケオトギリ *Hypericum laxum*、アリノトウグサ *Gonocarpus micranthus* などの湿地性の植物とエノキ *Celtis sinensis* var. *japonica*、アラカシ *Quercus glauca* var. *glauca*、コナラ *Quercus serrata* var. *serrata*、ヤマハゼ *Toxicodendron sylvestri* など樹木の他にコシダ *Dicranopteris linearis*、アズマネザサ *Pleioblastus chino* およびクマザサ *Sasa veitchii* var. *veitchii* などが生育している。さらに、1回の管理で、このエリアすべての草刈りをするのではないため、同エリア内にさまざまな草丈の場所が存在している。そのため、植生遷移途中のイネ科植物を中心に多くの種が生育している。加えてエッジ効果、谷壁斜面の微地形などが相まって多様な植物が生育していると考えられる。富田 (2008) は、谷壁斜面の湿地の周囲には、コシダ群落あるいはケネザサ群落が出現する機会が多いとし、マツ類が混生する部分もあると報告しており、概ね一致する結果であった。

トウカイコモウセンゴケの生育範囲が約236m<sup>2</sup>あり、この範囲について管理を行っている。草刈りにより、草丈が3~5cmと低く維持され日照が確保されていることと、落ち葉掻きにより比較的貧栄養に保たれていることでトウカイコモウセンゴケが大高緑地において最も多く生育している。

今後、トウカイコモウセンゴケが生育できる環境を維

持するためには樹木の進入やササの分布拡大を抑制するとともに、イネ科草本が繁茂しないように活動を続け、表土を剥がすなどして植生遷移を戻すなどの管理が必要になってくると推察される。極端に個体数が減少してしまうような緊急性を要する場合は、トウカイコモウセンゴケの播種の検討も必要になってくるかもしれない。

ヌマトラノオは、トウカイコモウセンゴケの丘で生育を確認している約2m<sup>2</sup>の範囲について草刈り管理を行っている。本種は、3月頃に発芽を開始するため、2月の休眠状態にある時期に草刈りを3~5cm程度の草丈で行っている。その後は生長の様子を見ながら選択的草刈りを行っている。2014年当たりから地表が乾燥しはじめ減少傾向にあるため、極端に個体数が減少してしまうような緊急性を要する場合は、他の湿潤な場所への播種も視野に入れ経過を観察していく。

ワレモコウも、トウカイコモウセンゴケの丘で生育を確認している約7m<sup>2</sup>の範囲について草刈り管理を行っている。現在、2月に草刈りを3~5cm程度の草丈で行い、その後は生長の様子を見ながら選択的草刈りを行っている。養父 (2002) は、6月と8月ごろに選択的草刈りと刈りくずの掻き集めをするとワレモコウが混在するようなススキ・チガヤ中茎草地が形成されるとしている。今後は、2月の草刈りに加え6月、8月の草刈りを検討したい。また、本種が生育するすぐ南側にヤマハギ *Lespedeza bicolor* が1.5mほどに生長し日当たりが悪くなっている。そのため、生育環境の改善のためにヤマハギの伐採を検討している。

### たまり池回りと導水路の北側

たまり池と導水路北側では、38科84種の植物が確認された。このエリアはアゼスゲ *Carex thunbergii* var. *thunbergii*、メリケンカルカヤ *Andropogon virginicus*、トダシバ *Arundinella hirta*、ネズミムギ *Lolium multiflorum*、シマスズメノヒエ *Paspalum dilatatum* などのカヤツリグサ科やイネ科を中心とした低茎草本が多くを占めるものの、タイサンボク *Magnolia grandiflora*、コブシ *Magnolia kobus*、ボケ *Chaenomeles speciosa*、キョウチクトウ *Nerium indicum*、オトメツバキ *Camellia japonica* var. *hortensis* cv. *rosacea* といった栽培種の樹木が多い。また、一部にクスノキ *Cinnamomum*

*camphora*とタイサンボクが高木化して日陰となる場所があることと、たまり池の回りと導水路周辺に湿地性の植物が生育しているのが特徴である。

本来、植物が繁茂して都市公園としての景観を損なわないことが重要で管理すべき場所であるが、このエリアにおける管理の優先順位は最も低く、頻繁な管理ができていない。このことが、結果的に多くの種の生息に繋がっていると考えられる。過度な草刈りは種数の減少に繋がするため、今後も現状維持に努める。

### 中央湿地・池と導水路より南

中央湿地・池と導水路より南では、40科106種と5つの管理区域の中で最も多くの植物が確認された。中央湿地と呼んでいる水田由来の湿地にアゼガヤツリ *Cyperus flavidus*、テンツキ *Fimbristylis dichotoma* var. *tentsuki*、ヒデリコ *Fimbristylis littoralis* var. *littoralis*、ホタルイ *Schoenoplectus hotarui*、コブナグサ *Arthraxon hispidus*、ヌカキビ *Panicum bisulcatum*、セリ *Oenanthe javanica* などの水田雑草が多く生育していることと導水路周辺に湿地性の植物が生育しているのが特徴である。また、池の中にはヨシ *Phragmites australis* と園芸スイレン *Nymphaea* cv. が生育している。

このエリアも、基本たまり池回りと導水路北側と同様、現状維持に努めるものの、水田雑草が生育できる状態に管理して行きたいと考えている。そのためには、草刈りの頻度を増やすことが必要となるかもしれない。

また、一部にツリガネニンジンが生育している場所が約1m<sup>2</sup>ある。今後は、ワレモコウと同様、2月の草刈りに加え6月、8月の草刈りを検討したい。近年は、数株しか確認できておらず、緊急性を要する。そのため、ツリガネニンジンの播種も念頭に検討したい。

### 冬鳥の餌場回り

冬鳥の餌場回りでは、37科77種の植物が確認された。このエリアは、4月・5月にエリア内を草刈りした後は、特に管理せず放置している。そのため、秋期にはススキ *Miscanthus sinensis*、ヨシ、オオアレチノギク *Conyza sumatrensis*、セイタカアワダチソウ *Solidago altissima* などの高茎草本が繁茂してブッシュ状になっている。加えてこのエリアの外周には、ユリノキ *Liriodendron*

*tulipifera*、コブシ、オオシマザクラ *Cerasus speciosa*、トサシモツケ *Spiraea nipponica* var. *tosaensis*、ハゼノキ *Toxicodendron succedaneum*、アジサイ *Hydrangea macrophylla* f. *macrophylla*、ガクアジサイ *Hydrangea macrophylla* f. *normalis*、アセビ *Pieris japonica*、サツキ *Rhododendron indicum*、クロガネモチ *Ilex rotunda*、ハナツクバネウツギ *Abelia* × *grandiflora* といった栽培種を中心とした樹木が生育し、それにヤマノイモ *Dioscorea japonica*、アオツヅラフジ *Cocculus orbiculatus*、ノブドウ *Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*、キレバノブドウ *Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla* f. *citruilloides*、エビヅル *Vitis ficifolia* var. *ficifolia*、ノアズキ *Dunbaria villosa*、クズ *Pueraria lobata* subsp. *lobata*、フジ *Wisteria floribunda* といったつる性植物が絡みついているのが特徴である。実際に、平地や山地の林、林縁、草地等でみられるウグイス *Cettia diphone*、ルリビタキ *Tarsiger cyanurus*、ベニマシコ *Carduelis flammea*、マヒワ *Carduelis spinus*、ミヤマホオジロ *Emberiza elegans* などの鳥類を中心に23種が確認されており(関上、私信)、餌場として機能していると考えられる。このエリアは、面積的には広く、年1回の草刈りも大がかりになってしまう。そのため、例えば、このエリアを4等分し、4月～7月の4回に分けて草刈りをする。これにより、1回の管理が軽減される。また、高茎草本の草丈にバリエーションができ、種子の成る時期が分散される。これによって、長期にわたり冬鳥が訪れるのを期待する。一方で、外周に大きく育った樹木を今後どう管理していくのが課題である。

### シラタマホシクサ自生地回り

シラタマホシクサ自生地回りでは、27科43種の植物が確認された。このエリアは、常に湧水が滾々と湧き出しており夏期でも枯れることはない。そのため、サギソウ、シラタマホシクサ、ハナノキ、モウセンゴケ、トウカイコモウセンゴケ、ハシカグサ *Neanotis hirsuta* var. *hirsuta*、ミゾカクシ *Lobelia chinensis* といった湿地に特有の植物が生育していると考えられる。

シラタマホシクサについては草刈りと冬期に採取と播種を行っていることもあり、大群落を形成するようになった。これにより、毎年多くの人写真撮影に訪れる



場所になってきたことは、管理への理解が得られるという点で、公園管理の上で特筆すべきである。ただし、特定の種だけの増加は生態系が不自然になるだけでなく、遺伝子多様性の縮小の懸念があるため、今後は環境を整備して自然な分布拡大に努める。また、今回の調査では確認されなかったが、2006年頃までは移植種のみミカキグサが生育していた。また、大主(私信)が1986年頃に1度だけ確認した自生種と考えられるイシモチソウ *Drosera peltata* var. *nipponica* を埋土種子による回復を検討したい。

### まとめ

本調査によって大高緑地の花木園の植物相については網羅できたと考えられる。また、各管理区域に生息する植物の特徴および移植種と栽培種について精査できたことは、今後活動していく上で良い判断基準となった。

花木園は、湧水湿地、林縁、草地、池および水田状の湿地など多様な環境があることに加え、管理区域ごとに草刈り頻度とそのタイミングが異なる。この結果として低茎草本、高茎草本、低木および高木まで生育できる環境の創出に繋り、71科203種の植物が確認された要因と考えられる。これは、ボランティアや公園管理者の作為による人為的な管理による功績が大きい。

一方、今後この特徴を維持していくには、長期間にわたる安定的な管理を、ボランティアと公園管理者や公共団体が一体となって、生物多様性の重要性を地域の中で位置づけ、管理できる体制を検討しなければならない時期が、近い将来来ることが予想される。

いずれにしろ、大高緑地の花木園が都市の中に残った貴重な空間であり、地域の活動がそれを支えることができることが本調査により確認された。

### 謝辞

本報告をまとめるにあたり愛知学院大学講師の富田啓介氏より、有益なご指摘をいただいた。(公財)愛知県都市整備協会大高緑地管理事務所長の林孝市氏には、過去の花木園の整備状況の情報について、大高緑地湿地の会の関上裕文氏には、花木園で観察される貴重な野鳥の情報をご提供いただいた。サクラの同定は、岐阜大学大学院連合農学研究科の伊藤玄氏にご協力頂いた。また、

現在の花木園の姿があるのは、大高緑地湿地の会のメンバーによる日ごろの活動のお陰である。以上の方々に深く感謝の意を申し上げる。

### 引用文献

- 愛知県環境部. 2007. 湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～. 愛知県環境部, 名古屋, 50pp.
- 飯尾俊介. 2010. 滝ノ水緑地の植物相. 滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会. 名古屋市緑区「滝ノ水緑地の植生」- 都市の緑地を守るために -, pp.27-36. 滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会, 名古屋.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 2014. レッドデータブック2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 8 植物 I (維管束植物). 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 東京, 646pp.
- 邑田仁(監修)・米倉浩司. 2012. 日本維管束植物目録. 北隆館, 東京. 379pp.
- 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015 - 植物編 -. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋, 385pp.
- 富田啓介. 2008. 尾張丘陵および知多丘陵の湧水湿地にみられる植生分布を地形・堆積物の関係. 地理学評論, 81: 470-490.
- 富田啓介. 2014. 湧水湿地の保全・活用と地域社会. E-journal GEO 9 (1): 26-37.
- 植田邦彦. 1989. 東海丘陵要素の植物地理: I. 定義, 日本植物分類学会, 40 (5~6): 190-202.
- 植田邦彦. 2002. 東海丘陵要素の起源と進化. 広木詔三(編). 里山の生態学 その成り立ちと保全のあり方, pp.42-57. 名古屋大学出版会, 名古屋.
- 養父志乃夫. 2002. 田んぼの修復. 養父志乃夫・荒廃した里山を蘇らせる自然生態修復工学入門, pp. 69-96. 農村漁村文化協会, 東京都.

大主ほか (2017) 大高緑地の花木園における植生管理と植物相

表2. 管理区域ごとに確認された植物相 (1/4)

No.	目名	科名	種名	学名	管理区域番号				
					①	②	③	④	⑤
1	ヒカゲノカズラ目	ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i>	●				
2	トクサ目	トクサ科	スギナ	<i>Equisetum arvense</i> f. <i>arvense</i>	●	●	●	●	●
3	ゼンマイ目	ゼンマイ科	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>			●		●
4	ウラボシ目	ウラボシ科	コシダ	<i>Dicranopteris linearis</i>	●				
5	フサシダ目	カニクサ科	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>				●	●
6	ウラボシ目	コバノイシカグマ科	イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i>			●		
7	ウラボシ目	コバノイシカグマ科	ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i> subsp. <i>japonicum</i>				●	
8	ウラボシ目	ヒメシダ科	ハシゴシダ	<i>Thelypteris glanduligera</i>	●				
9	ウラボシ目	ヒメシダ科	ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>					●
10	ウラボシ目	イワデンタ科	シケチシダ	<i>Cornopteris decurrenti-alata</i>				●	
11	ウラボシ目	イワデンタ科	シケシダ	<i>Debaria japonica</i>			●	●	
12	ウラボシ目	オシダ科	ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>	●	●	●	●	●
13	マツ目	マツ科	クロマツ	<i>Pinus thunbergii</i>	●				
14	スイレン目	スイレン科	園芸スイレン <sup>*2</sup>	<i>Nymphaea</i> cv.			●		
15	コショウ目	ドクダミ科	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>			●		●
16	モクレン目	モクレン科	ユリノキ <sup>*2</sup>	<i>Liriodendron tulipifera</i>				●	
17	モクレン目	モクレン科	タイサンボク <sup>*2</sup>	<i>Magnolia grandiflora</i>	●	●			
18	モクレン目	モクレン科	コブシ <sup>*2</sup>	<i>Magnolia kobus</i>			●	●	
19	クスノキ目	クスノキ科	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	●	●		●	
20	ヤマノイモ目	ヤマノイモ科	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>	●	●		●	
21	ヤマノイモ目	ヤマノイモ科	オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	●				
22	ユリ目	サルトリイバラ科	サルトリイバラ	<i>Smilax china</i> var. <i>china</i>				●	
23	ユリ目	ユリ科	シンテツポウユリ	<i>Lilium</i> × <i>formolongo</i>	●	●			
24	キジカクシ目	ラン科	サギソウ <sup>*2</sup>	<i>Pecteilis radiata</i>					●
25	キジカクシ目	ラン科	ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>	●	●			●
26	キジカクシ目	アヤメ科	キシヨウブ	<i>Iris pseudacorus</i>			●	●	
27	キジカクシ目	アヤメ科	ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>	●	●	●		
28	キジカクシ目	キジカクシ科	ヒメヤブラン <sup>*2</sup>	<i>Liriope minor</i>	●	●			
29	ツユクサ目	ツユクサ科	ツユクサ	<i>Commelina communis</i> var. <i>communis</i>		●	●	●	●
30	イネ目	ガマ科	ガマ	<i>Typha latifolia</i>			●		
31	イネ目	ホシクサ科	シラタマホシクサ <sup>*1</sup>	<i>Eriocaulon nudicuspe</i>	●	●	●		●
32	イネ目	イグサ科	ハナビゼキシヨウ	<i>Juncus alatus</i>			●		●
33	イネ目	イグサ科	イ	<i>Juncus decipiens</i>			●	●	●
34	イネ目	イグサ科	ヒロハノコウガイゼキシヨウ	<i>Juncus diastrophanthus</i>			●		
35	イネ目	イグサ科	コウガイゼキシヨウ	<i>Juncus prismatocarpus</i> subsp. <i>leschenaultii</i>		●	●		
36	イネ目	イグサ科	クサイ	<i>Juncus tenuis</i>				●	
37	イネ目	イグサ科	ズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>	●	●	●	●	
38	イネ目	カヤツリグサ科	マスクサ	<i>Carex gibba</i>	●	●			
39	イネ目	カヤツリグサ科	ナキリスゲ	<i>Carex lenta</i> var. <i>lemta</i>	●		●		
40	イネ目	カヤツリグサ科	アオスゲ	<i>Carex leucochlora</i> var. <i>leucochlora</i>	●				
41	イネ目	カヤツリグサ科	ゴウソ	<i>Carex maximowiczii</i> var. <i>maximowiczii</i>	●	●	●		●
42	イネ目	カヤツリグサ科	ヒメゴウソ	<i>Carex phacota</i>			●	●	●
43	イネ目	カヤツリグサ科	アゼスゲ	<i>Carex thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>			●	●	●
44	イネ目	カヤツリグサ科	モエギスゲ	<i>Carex tristachya</i> var. <i>tristachya</i>	●				
45	イネ目	カヤツリグサ科	アイダクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>brevifolius</i>	●	●	●		
46	イネ目	カヤツリグサ科	ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i>				●	
47	イネ目	カヤツリグサ科	アゼガヤツリ	<i>Cyperus flavidus</i>				●	
48	イネ目	カヤツリグサ科	コアゼガヤツリ	<i>Cyperus haspan</i> var. <i>tuberiferus</i>			●	●	●
49	イネ目	カヤツリグサ科	カワラスガナ	<i>Cyperus sanguinolentus</i>			●	●	
50	イネ目	カヤツリグサ科	テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> var. <i>tentsuki</i>	●		●		
51	イネ目	カヤツリグサ科	ヒデリコ	<i>Fimbristylis littoralis</i> var. <i>littoralis</i>				●	
52	イネ目	カヤツリグサ科	ヤマイ	<i>Fimbristylis subbispicata</i>	●	●	●		
53	イネ目	カヤツリグサ科	ホタルイ	<i>Schoenoplectus holarui</i>			●		●
54	イネ目	カヤツリグサ科	アブラガヤ	<i>Scirpus wichuriae</i>			●		●

Continued



大主ほか (2017) 大高緑地の花木園における植生管理と植物相

表2. 管理区域ごとに確認された植物相 (2/4)

No.	目名	科名	種名	学名	管理区域番号				
					①	②	③	④	⑤
55	イネ目	イネ科	コヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i>	●	●	●		
56	イネ目	イネ科	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	●	●	●	●	
57	イネ目	イネ科	コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>			●		
58	イネ目	イネ科	トダシバ	<i>Arundinella hirta</i>	●	●	●	●	
59	イネ目	イネ科	ヒメコバンソウ	<i>Briza minor</i>		●	●		●
60	イネ目	イネ科	メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>	●				
61	イネ目	イネ科	アオカモジグサ	<i>Elymusracemifer</i> var. <i>racemifer</i>		●	●		
62	イネ目	イネ科	カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>	●				
63	イネ目	イネ科	トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i> var. <i>parvigluma</i>	●	●		●	
64	イネ目	イネ科	ウシノシツペイ	<i>Hemarthria sibirica</i>	●				
65	イネ目	イネ科	チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>	●	●	●	●	
66	イネ目	イネ科	チゴザサ	<i>Isachne globosa</i> var. <i>globosa</i>		●	●		●
67	イネ目	イネ科	ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>		●			
68	イネ目	イネ科	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>	●	●	●	●	
69	イネ目	イネ科	チヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i>			●	●	
70	イネ目	イネ科	ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>			●		
71	イネ目	イネ科	シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>		●			
72	イネ目	イネ科	スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>	●		●		
73	イネ目	イネ科	タチスズメノヒエ	<i>Paspalum urvillei</i>	●	●	●		
74	イネ目	イネ科	チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	●	●	●	●	
75	イネ目	イネ科	クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>					●
76	イネ目	イネ科	ヨシ	<i>Phragmites australis</i>	●	●	●	●	
77	イネ目	イネ科	アズマネザサ	<i>Pleioblastus chino</i>	●	●		●	
78	イネ目	イネ科	スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>			●		
79	イネ目	イネ科	オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i> subsp. <i>trivialis</i>	●	●		●	●
80	イネ目	イネ科	ヌメリグサ	<i>Sacciolepis spicata</i> var. <i>oryztorum</i>	●	●	●		
81	イネ目	イネ科	クマザサ	<i>Sasa veitchii</i> var. <i>veitchii</i>	●				
82	イネ目	イネ科	コツブキンエノコロ	<i>Setaria pallidifusca</i>		●	●	●	
83	イネ目	イネ科	ムラサキエノコロ	<i>Setaria viridis</i> f. <i>misera</i>	●		●		
84	イネ目	イネ科	セイバンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i>		●			
85	イネ目	イネ科	カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>	●	●	●		●
86	イネ目	イネ科	シバ <sup>※2</sup>	<i>Zoysia japonica</i>	●				
87	キンボウゲ目	アケビ科	アケビ	<i>Akebia quinata</i>		●			
88	キンボウゲ目	アケビ科	ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>		●			
89	キンボウゲ目	ツツラフジ科	アオツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>			●	●	
90	ユキノシタ目	マンサク科	トサミズキ	<i>Corylopsis spicata</i>	●				
91	ユキノシタ目	ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>	●	●	●		
92	ユキノシタ目	アリノトウグサ科	アリノトウグサ	<i>Gonocarpus micranthus</i>	●				
93	ブドウ目	ブドウ科	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>	●	●	●	●	
94	ブドウ目	ブドウ科	キレバノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i> f. <i>citruloides</i>			●	●	
95	ブドウ目	ブドウ科	ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i>	●				
96	ブドウ目	ブドウ科	エビヅル	<i>Vitis ficifolia</i> var. <i>ficifolia</i>	●			●	
97	マメ目	マメ科	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>		●	●	●	
98	マメ目	マメ科	ノアズキ	<i>Dunbaria villosa</i>	●	●	●	●	
99	マメ目	マメ科	ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>	●		●		●
100	マメ目	マメ科	ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i> var. <i>bicolor</i>	●			●	
101	マメ目	マメ科	マルバハギ	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i>					●
102	マメ目	マメ科	メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i> var. <i>cuneata</i>	●				
103	マメ目	マメ科	ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i> var. <i>pilosa</i>	●	●		●	
104	マメ目	マメ科	クズ	<i>Pueraria lobata</i> subsp. <i>lobata</i>	●			●	
105	マメ目	マメ科	ヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> var. <i>segetalis</i>		●	●		
106	マメ目	マメ科	フジ	<i>Wisteria floribunda</i>					●
107	バラ目	バラ科	キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>japonica</i>					●

Continued

表2. 管理区域ごとに確認された植物相 (3/4)

No.	目名	科名	種名	学名	管理区域番号				
					①	②	③	④	⑤
108	バラ目	バラ科	ボケ <sup>*2</sup>	<i>Chaenomeles speciosa</i>		●			
109	バラ目	バラ科	オオシマザクラ <sup>*2</sup>	<i>Cerasus speciosa</i>	●		●		
110	バラ目	バラ科	ヤマザクラ×オオシマザクラ <sup>*2</sup>	<i>Cerasus jamasakura</i> var. <i>jamasakura</i> × <i>C. speciosa</i>					●
111	バラ目	バラ科	ヘビイチゴ	<i>Potentilla hebiichigo</i>					●
112	バラ目	バラ科	ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i> var. <i>multiflora</i>	●	●	●	●	●
113	バラ目	バラ科	ミヤコイバラ	<i>Rosa paniculigera</i>				●	
114	バラ目	バラ科	テリハノイバラ	<i>Rosa luciae</i>				●	
115	バラ目	バラ科	ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>	●		●	●	
-	バラ目	バラ科	イチゴ属の一種	<i>Rubus</i> sp.		●			
116	バラ目	バラ科	ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>	●				
117	バラ目	バラ科	トサシモツケ <sup>*2</sup>	<i>Spiraea nipponica</i> var. <i>tosaensis</i>				●	●
118	バラ目	グミ科	ナワシログミ	<i>Elaeagnus pungens</i>		●			
119	バラ目	クロウメモドキ科	イソノキ	<i>Frangula crenata</i>	●	●		●	
120	バラ目	アサ科	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>					●
121	バラ目	アサ科	エノキ	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	●		●	●	
122	ブナ目	ブナ科	アラカシ	<i>Quercus glauca</i> var. <i>glauca</i>	●				
123	ブナ目	ブナ科	コナラ	<i>Quercus serrata</i> var. <i>serrata</i>	●				
124	ブナ目	カバノキ科	ハンノキ	<i>Alnus japonica</i> var. <i>japonica</i>				●	●
125	カタバミ目	カタバミ科	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i> var. <i>villosa</i>	●	●			
126	キントラノオ目	トウダイグサ科	コニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i>	●				
127	キントラノオ目	トウダイグサ科	アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>	●		●	●	
128	キントラノオ目	トウダイグサ科	ナンキンハゼ <sup>*2</sup>	<i>Triadica sebifera</i>				●	
129	キントラノオ目	ヤナギ科	シダレヤナギ <sup>*2</sup>	<i>Salix babylonica</i>				●	
130	キントラノオ目	ヤナギ科	バッコヤナギ	<i>Salix caprea</i>				●	
131	キントラノオ目	ヤナギ科	ジャヤナギ	<i>Salix eriocarpa</i>	●				
132	キントラノオ目	ヤナギ科	タチヤナギ	<i>Salix triandra</i>				●	
133	キントラノオ目	スマレ科	スマレ	<i>Viola mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>					●
134	キントラノオ目	スマレ科	ニオイタチツボスマレ	<i>Viola obtusa</i>	●				
135	キントラノオ目	スマレ科	ツボスマレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>verecunda</i>					●
136	キントラノオ目	オトギリソウ科	コケオトギリ	<i>Hypericum laxum</i>	●	●	●	●	●
137	フトモモ目	ミソハギ科	サルスベリ <sup>*2</sup>	<i>Lagerstroemia indica</i>	●	●		●	
138	フトモモ目	アカバナ科	ヒレタゴボウ	<i>Ludwigia decurrens</i>				●	
139	ムクロジ目	ウルシ科	ヌルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>chinensis</i>	●				
140	ムクロジ目	ウルシ科	ハゼノキ <sup>*2</sup>	<i>Toxicodendron succedaneum</i>	●		●	●	
141	ムクロジ目	ウルシ科	ヤマハゼ	<i>Toxicodendron sylvestri</i>	●				
142	ムクロジ目	ムクロジ科	ウリカエデ	<i>Acer crataegifolium</i>	●		●		
143	ムクロジ目	ムクロジ科	イロハモミジ <sup>*2</sup>	<i>Acer palmatum</i>	●				
144	ムクロジ目	ムクロジ科	ハナノキ <sup>*2</sup>	<i>Acer pycnanthum</i>					●
145	ムクロジ目	ムクロジ科	トチノキ <sup>*2</sup>	<i>Aesculus turbinata</i>				●	
146	ナデシコ目	タデ科	シロバナサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i>	●				
147	ナデシコ目	タデ科	イスタデ	<i>Persicaria longiseta</i>					●
148	ナデシコ目	タデ科	ボントクタデ	<i>Persicaria pubescens</i>				●	
149	ナデシコ目	タデ科	アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata</i> var. <i>sibirica</i>				●	●
150	ナデシコ目	タデ科	スイバ	<i>Rumex acetosa</i>	●	●	●	●	
151	ナデシコ目	モウセンゴケ科	モウセンゴケ <sup>*1</sup>	<i>Drosera rotundifolia</i>					●
152	ナデシコ目	モウセンゴケ科	トウカイコモウセンゴケ	<i>Drosera tokaiensis</i> subsp. <i>tokaiensis</i>	●				●
153	ナデシコ目	ヒユ科	ヒカゲイノコズチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>					●
154	ミズキ目	アジサイ科	アジサイ <sup>*2</sup>	<i>Hydrangea macrophylla</i> f. <i>macrophylla</i>				●	●
155	ミズキ目	アジサイ科	ガクアジサイ <sup>*2</sup>	<i>Hydrangea macrophylla</i> f. <i>normalis</i>					●
156	ツツジ目	カキノキ科	カキノキ <sup>*2</sup>	<i>Diospyros kaki</i>	●				
157	ツツジ目	サクラソウ科	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>					●
158	ツツジ目	サクラソウ科	ヌマトラノオ	<i>Lysimachia fortunei</i>	●				●
159	ツツジ目	サクラソウ科	コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i> var. <i>japonica</i>		●		●	●

Continued

大主ほか (2017) 大高緑地の花木園における植生管理と植物相

表2. 管理区域ごとに確認された植物相 (4/4)

No.	目名	科名	種名	学名	管理区域番号				
					①	②	③	④	⑤
160	ツツジ目	ツバキ科	オトメツバキ <sup>※2</sup>	<i>Camellia japonica</i> var. <i>hortensis</i> cv. <i>roseacea</i>		●			
161	ツツジ目	サカキ科	ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i> var. <i>japonica</i>	●				●
162	ツツジ目	ツツジ科	アセビ <sup>※2</sup>	<i>Pieris japonica</i>					●
163	ツツジ目	ツツジ科	サツキ <sup>※2</sup>	<i>Rhododendron indicum</i>	●		●	●	
164	ツツジ目	ツツジ科	シャシャンボ	<i>Vaccinium bracteatum</i>	●				
165	リンドウ目	アカネ科	ハシカグサ	<i>Neanotis hirsuta</i> var. <i>hirsuta</i>					●
166	リンドウ目	アカネ科	ヘクソカズラ	<i>Paederia foetida</i>	●	●	●	●	●
167	リンドウ目	キョウチクトウ科	キョウチクトウ <sup>※2</sup>	<i>Nerium indicum</i>		●			
168	ムラサキ目	ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum zeylanicum</i>		●			
169	シソ目	モクセイ科	ヒトツバタゴ <sup>※1</sup>	<i>Chionanthus retusus</i>		●	●		
170	シソ目	モクセイ科	シナレンギョウ <sup>※2</sup>	<i>Forsythia viridissima</i>				●	
171	シソ目	モクセイ科	イボタノキ属の一種 <sup>※2</sup>	<i>Ligustrum</i> sp.	●		●		
172	シソ目	オオバコ科	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>			●	●	
173	シソ目	オオバコ科	ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i>		●			
174	シソ目	オオバコ科	オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>		●			
175	シソ目	シソ科	クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i> var. <i>trichotomum</i>					●
176	シソ目	シソ科	トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>				●	
177	シソ目	シソ科	ヒメジソ	<i>Mosla dianthera</i>		●	●		●
178	シソ目	サギゴケ科	ムラサキサギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>			●		
179	シソ目	キリ科	キリ <sup>※2</sup>	<i>Paulownia tomentosa</i>	●				
180	シソ目	キツネノマゴ科	キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i> var. <i>leucantha</i> f. <i>japonica</i>	●	●	●		●
181	モチノキ目	モチノキ科	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i> var. <i>crenata</i>		●		●	
182	モチノキ目	モチノキ科	クロガネモチ <sup>※2</sup>	<i>Ilex rotunda</i>	●			●	
183	キク目	キキョウ科	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>				●	
184	キク目	キキョウ科	ミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i>					●
185	キク目	キク科	ヨモギ	<i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>	●	●	●	●	
186	キク目	キク科	ノコンギク	<i>Aster microcephalus</i> var. <i>ovatus</i>	●	●		●	●
187	キク目	キク科	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>				●	
188	キク目	キク科	ヒメムカシヨモギ	<i>Conyza canadensis</i>				●	
189	キク目	キク科	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	●	●	●	●	●
190	キク目	キク科	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	●	●	●		
191	キク目	キク科	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>			●	●	
192	キク目	キク科	チチコグサ	<i>Euchiton japonicus</i>	●				
193	キク目	キク科	ウスベニチチコグサ	<i>Gamochaeta purpurea</i>		●			
194	キク目	キク科	ブタナ	<i>Hypochoeris radicata</i>		●			
195	キク目	キク科	ニガナ	<i>Ixeris dentatum</i> subsp. <i>dentatum</i>	●	●	●	●	●
196	キク目	キク科	オオヂシバリ	<i>Ixeris japonica</i>	●	●			
197	キク目	キク科	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	●	●	●	●	
198	キク目	キク科	タンポポ属の一種	<i>Taraxacum</i> sp.	●		●	●	
199	マツムシソウ目	スイカズラ科	ハナツクバネウツギ <sup>※2</sup>	<i>Abelia × grandiflora</i>				●	●
200	マツムシソウ目	スイカズラ科	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i> var. <i>japonica</i>	●	●		●	●
201	セリ目	セリ科	オオチドメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	●	●	●	●	
202	セリ目	セリ科	セリ	<i>Oenanthe javanica</i>				●	
203	セリ目	セリ科	オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i>	●	●		●	
計	36目	71科		203種	101	84	106	77	43

配列及び名称は基本「日本維管束植物目録」(邑田(監修)・米倉, 2012)に準拠した。

注)

※1 移植種

※2 栽培種